

健康ネットワーク

爪白癬(つめはくせん)

爪白癬は、白癬菌というカビの一種が爪に感染して起こる爪の水虫です。白癬菌が爪の中で増殖すると、爪は破壊され空気が入り込んで、白く厚くぼろぼろになります。足白癬(水虫)の患者数は全国で一千万人以上とも言われ、その約半数は爪にも感染しているという調査結果もあります。爪白癬は白癬菌の格好のすみかとなっていて、バスマットやスリッパを介し同居家族に感染したり、自分の他の部分に感染したり、糖尿病などで抵抗力が低下している人には細菌感染を引き起こしたりすることもあります。

爪白癬の治療は、塗り薬では爪の中まではなかなか浸透しないため、多くの場合、飲み薬が必要となります。肝臓の悪い方や、妊娠中・授乳中の方、一緒に服用してはいけない薬を内服している方などを除き、血液検査をしながら、3カ月から6カ月の内服で、足白癬はもちろんだ、多くの爪白癬も治すことができます。内服治療を開始する際には、爪白癬と似た症状を引き起こす疾患、例えば乾癬や扁平苔癬、靴の圧迫による爪の変形などと鑑別するために顕微鏡による白癬菌の確認が必要です。

爪の変化に気づいたら、まず皮膚科を受診してください。長年の爪白癬で爪の変化が著しい方、高齢で爪の成長速度が遅い方は、内服しても完治が難しい場合があります。このような方や内服が無理な方でも塗り薬を続けることで、悪化を防いだり他人への感染を防いだりすることができます。治らないとあきらめずに治療してみましょう。

医師 宮澤 順子

羽生サロがたり

時代の流れと共に生活様式が大きく変わり、家庭の行事(晴れの日)も消えてなくなりつつあります。昔から伝えられてきた年中行事をお知らせしましょう。

家庭の年中行事 三月(弥生)

- 1日 浅間様(上岩瀬)
- 3日 ひな祭り
- 6日 水天講(本川俣)
- 15日 榛名講(はんな講) 辻切り
- 18日 ねはんず(獅子舞(西新田))
- 18日 秋葉様(堀口)
- 18日 春彼岸
- 20日 産泰講(中岩瀬・須影)
- 23日 二十三夜様(本川俣)
- 25日 お獅子様(本川俣)
- 26日 お日待ち(小須賀)
- 26日 お日待ち(稲子)
- 28日 お獅子様(手子林・藤間)
- 三月下旬 神田明神甘酒祭り(東谷)

二十三夜様(サンヤ様)

(一) 道端に十六夜、十九夜、二十二夜本尊如意輪観音、二十三夜と刻まれた石塔があるのを見たことがあるでしょう。お祭りしてある神様の御名は、夜の世界を支配する「月読命」。ふつう「目の神様」と、いわれています。

昔は、今のように栄養学も発達していませんし、衛生面もよくありませんでした。でも、何より貧しかったからでしょうが、目を悪くする人が多かったのです。「あそここのサンヤ様は、とてもよくきくつた。」と評判がたつと、いくつもの森や田んぼを通りこしてお参りをしたそうです。そして、おさ(米)と水とおさい銭をあげておがみ。水は目を洗うために持ち帰りました。

「何よりも嬉しかったのは、帰り道、目のために精のつくウナギを一串買ってもらいそれが食べられたこと。」と、話してくれたおばあちゃんもいました。

(二)

お祭りしてある神様の御名は、勢至菩薩。ふつう「知恵の神様」といわれています。

昔は、二十三夜の石塔のまわりをムシ口で囲み、その中に入れるのは女の人だけ、江戸城の大奥ならぬ田んぼの大奥でした。みんな、夜九時ごろ集まって、家々から持ち寄った馳走を食べ、おしやべりをしながら二十三夜のお月様が出てくるのを待っています。睦言家庭円満の秘訣は、やはり夜でなくてはと、おしやべりしようのバアさんが、夜のふけるのも忘れて、身ぶり手ぶりで、おもしろおかしく話してくれまます。さしずめ夜の女大生というものでしょう。

「それが、とても役にたったんさねえ。」

と、顔を赤らめて話してくれたおばあちゃんもありました。



ひととひと 女と男

女性に対する暴力の現状

配偶者からの暴力や、性犯罪、ストーカー行為などの女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものであり、男女共同参画社会を形成していく上で克服すべき重要な課題です。

配偶者からの暴力についての被害経験

内閣府が平成20年度に実施した調査によると、これまでに結婚したことのある人のうち、配偶者から「身体的暴行」、「心理的攻撃」、「性的強要」といった暴力、つまりDV(ドメスティック・バイオレンス)を受けたことがある人は、女性の約3割(33.2%)で、そのうちの約1割(13.3%)が、そうした行為によって、命の危険を感じたことがあるという結果が明らかになりました。

この調査結果から、3割もの人が被害にあっていると驚かれる方、自分はどうだっただろうと振り返る方：様々な方がいると思います。

自分は暴力を受けたことがなくても、身近なところにもなんらかの暴力を受けた人、または暴力を振るってしまった人がいるということ。DVは多くの人に關わる身近な問題です。

また、羽生市においてもDVに関する相談等の対応件数は、年々増加傾向にあります。

DV被害者になってしまったら?

他人に対する暴力が犯罪であるのと同じように、夫婦間の暴力も被害者の人身を傷つけるものです。また、その行為は人権を侵害する犯罪行為で、決して許されるものではありません。

お悩みの方は、婦人相談センターDV相談室 ☎048(863)6060・羽生市女性相談(毎月第2・4水曜日、正午～午後4時 要予約) ☎(561)1681 にご相談ください。

人権推進課男女共同参画係

石鳥風月

俳句 (俳句連盟会員)

- あらあらと啄まるるや木守柿 上羽生 津田 成子
- 茂るまま住める庭なり數柑子 本川俣 堤 瑞枝
- 大枯野その向かうには青海波 上新郷 手島 美枝
- あと少しあと少しとて編む毛糸 中央三 寺井 芳子
- 冬晴の沼に一舟棹さしぬ 北荻島 戸ヶ崎淳子
- 白枝垂れ紅もしだれて梅の門 本川俣 中島 京子
- 短日を気にせぬ話好きなりし 神 戸 西田 光子
- 初御空青ひと色の大ききよ 東 一 根岸 明子
- 一筋の煙となれる落葉焚く 今 泉 根岸 光子
- 悴みて妻六十年の厨事 上新郷 長谷川景一
- 商店の二階の窓辺懸大根 中央四 長谷川節子
- 朴冬芽伸びる力を漲らせ 中手子林 長谷川好子
- 山茶花の垣根巡らす家明り 喜右門新田 萩原 澄江
- めぐり来る時疑はず冬木の芽 中央五 蓮見由美子
- 落つる日の早さの見えし大冬木 南 五 羽鳥 茂子
- 短歌 (羽生短歌会)**
- 西風に路上の枯葉かたまりて タップダンスを渦なし踊る 南 五 今成マサ子
- 春浅き利根の渡しの舫い舟 水ひたひたと煌めき寄する 南 六 折原 秀子
- 日溜まりの花舗にパンジー選りをれば 蜜蜂の来てしばし離れず 南 二 早川 裕子